

# ギリシャで難民の医療支援へ 高山日赤の白子医師が出発

高山日赤の第一内科部長・白子順子さん(57)が、十八日からギリシャ第二の都市テッサロニキに派遣され、シリア難民の医療支援に当たる。国際赤十字・赤新月社連盟から日赤本社を通じて依頼を受けたもので、白子さんはこれまで地震や洪水などで被災したパキスタンやハイチなどで計七回にわたり国際救援に従事した実績がある。



ギリシャは、シリア紛争を逃れてヨーロッパ諸国へ渡ろうとする移民や難民が急増し、三月末で百万人を超えたという。白子さんはフィンランドとドイツの赤十字が共

同展開している「基礎保健緊急対応ユニット」の一員として、数万人が暮らすという複数の収容所を巡回診察に当たる。十七日に高山日赤で開かれた出発式で白子さんは「祖国を出ざるを得なかった中東の人々のために微力ではありますが力になり、現地で高山赤十字病院の気持ちで医療が出来ればと思います」とあいさつした(右写真)。